

小学校第6学年 社会科学学習指導案

学習指導者 東かがわ市立白鳥小学校 久保田 直寛

- 1 単元名 「世界に歩み出した日本 ―国際的地位の向上の背景を、歴史的・地理的・公民的視点から探る―」
- 2 単元計画(総時数 6時間【本時1／6】)
 - 江戸時代末期の出来事や明治初期の政策等を振り返り、明治中期以降の近代化を目指した日本の取り組みについて、学習計画を立てる。(1時間)
 - 国際的地位の向上を目指した日本の様子を理解するために、産業の発展や世界への進出、この時代に活躍した人物等について調べる。(4時間)
 - 明治政府の政策により社会や国民の生活がどのように変わったかをまとめるとともに、大正、昭和初期へ向かう日本や社会についての見通しをもつ。(1時間)

3 授業の見どころ

単元の導入で子ども自身が問いをもつことが、その後の学習活動に主体的に取り組むことにつながると考える。本時では、始めから高度な問いや学習問題を作るのではなく、子どもから出てくる素朴な問いを出し合い、話し合うことで単元の学習問題を作っていくようにする。また、その過程で予想を立てたり、単元全体の見通しをもたせたりし、主体的に取り組めるようにするための発問、助言、仕掛けを工夫する。

4 本時の学習指導

(1) 目標

江戸時代後期に結んだ条約とノルマントン号事件に関連させて考えることを通して、明治中期以降、世界における日本の立場を回復するための対策について見通しをもつことができる。

(2) 学習指導過程

学習活動と児童の意識	教師の指導
1 前単元までの内容を振り返り、学習課題を確認する。 物価が上がったことで幕府への不満が高まり、江戸時代が終わったね。 明治時代は、地租改正や徴兵令など、富国強兵のために様々な政策をしているね。 物事には流れがあり、解決するために様々な政策をしているね。現代にもつながるね。	○ 時代の流れを意識させるために、江戸後期から明治時代前期にかけての出来事や政策等について出来事等のカードを並べ替えながら振り返り、カードを掲示しておく。 ○ 裁判の結果が江戸時代末期の不平等条約に関連していることに気付けるように、日米友好通商条約についてふれておく。
ノルマントン号事件をもとに、明治中期以降の日本の政治について予想しよう。	
2 ノルマントン号事件から江戸時代末期に結んだ不平等な条約について考える。 (1) 風刺画から分かることや考えたこと、疑問に思ったことを話し合う。 外国の人は全員助かっているのに、日本人は助かっているよ。なぜ？	○ 電子黒板に風刺画を示しておき、資料として示しながら話し合えるようにしておく。 ○ 考えが出にくい場合は、助かった人とそうでない人を確認したり、それぞれの表情に着目したりするよう助言する。 ○ 「なぜ日本人だけ助からなかったのか。」などの疑問をもたせるために、子どもたちの話し合いの後、日本人が全員亡くなり、西洋人が全員助かったこと、その罪が軽かったこと等の事実を伝える。
指導の重点項目 (2) ノルマントン号事件後の裁判の結果から、その原因を考える。 イギリスの裁判だったので、イギリス人に有利な判決をしたのかな。	指導の重点項目 ○ 日本の政治がどのような方向に向かうのかの見通しをもたせるために、「事件後、どのような意見が国民から出てきたか。」「同じことが起こらないようにするために、どのような対策が必要か。」を問い掛ける。
3 ノルマントン号事件の後、日本がどのような政策をとっていったかを考える。 (1) 予想する。 憲法を制定して、日本が法治国家になったとアピールしたのではないかな？ 富国強兵を更に進めて、軍勢力を高めるのではないかな？ 産業を発展させて、国の収入を増やしていったのかな？	○ 事件の裁判の結果をもとに疑問に思ったことを表現したり、その後の政策について自分の考えをもったりしているかを、発言やノートで評価する。 ○ 考えをもちにくい児童には、板書に示した明治以降の出来事を参考にするよう助言する。 ○ 明治中期以降の社会の流れや政策について理解するために、年表を提示する。
(2) 年表で出来事を確認する。 八幡製鉄所で生産が始まったので、鉄鋼業に力を入れたのかな？ 韓国併合をしているので、領地を広げようとしたのかな？	○ 「日本は世界に力を示すために、」という書き出しで、本時のまとめをする。
4 学習のまとめをし、本時の学びを振り返る。	